

視聴覚教育

No. 80

発行日 57.2.1

発行 岡崎市AVL
編集 委員会

広報委員会

生かせ、視聴覚教材・機材

岡崎市立矢作南小学校長 杉浦英夫

視聴覚教育の推進に対して、多額の公費が投入されるようになって、長い年が経過している。本年もアナライザーが五校設置され、順次、中学校へ配置されると聞いている。

学校によっては、過去に購入された教材、教具、機材が学校の隅ではこりまがぶって出番を待っていないだろうか。あまり活用もされないまま、新しいものに買い改められたものもあろうかと思われる。自作のTPシートも応募のためにつくられるだけでは悲しい。生きて働き、教育効果をあげ、日々の教育活動に貢献できることを願っている。

本年度も自作委員会と社会科部の献身的な努力の結果、五本の自作ビデオが完成した。しかし、これが、いつ、どこで、どのようにつ活用していただけるかが今後の大きな課題であると考えられ

る。生きて働く教材としたものである。

視聴覚教育の拠点としてのライブラリーが望ましい姿で運営され、指導の機関として、自作教材の制作推進母体となり、各種視聴覚機器の充実と活用のために努力されんことを願う。学校に充実されつつある教材・機材の活用は、各校の視聴覚、教育工学主任のこころ煮気にかかっている。

熱とれあ、小れる。
アナライザー 授業研究会

本年度、市のご厚意により、中学校で、しし機器の更新とともに、アナライザーの設置が始まり、授業に使われたしている。この機会に、去る一月二十二日(金)、甲山中学校を会場にしてアナライザー使用による授業研究会が開催された。

視聴覚主任、教育工学主任、本年度設置校(五校)の代表の先生方あわせて、小学校48名、中学校45名、その他TP受賞者もあわせて、一二〇名にのぼる多数の参加を得、盛会のうちに会が終わった。授業者の算数・数学科指導員、高木幸夫先生の落ち着いたユーモアあふれる指導に、通路まであかれた参観者からも笑いがもれ、和気あいあいのうちに研究会は進行した。なお、実践報告を行った野々山宏司先生(甲山中学校視聴覚主任)の利用計画における苦心談も参考になった。

ママの地がな思い出

岡崎市立八ツ美中学校 三浦千幸



視聴覚機器を利用して、うれしかった思い出が三つある。

子どもたちの学校生活を「登校から下校まで」「こまこま」ビデオにおさめて、お母さん方と学級懇談会で見合っただ思い出。うちの子が画面にとび出すと、かたずをのんで見入る。と同時にまわりから歓声がわき起こる。一人ひとりの子どもものしぐし、個性にうなづき笑みあふ。あの時ばかりは、ごく自然にお母さん方の感想がおりりとして舞い込んできた。

もうひとつは、絵本の読み聞かせにトラペンアップを利用した思い出。ねずみくんシリーズの「りんごがたべたい、ねずみくん」をOHPで読みあった。絵の迫力と言葉のリズムがうまくとけあって、すぐ自分で読み始めた。絵がとび出すと、自然にお話が口に出てきて、となりとに「こり」。

最近では、巡回映画の「食公害を追求する」が良かった。地理の教科書に「東京の大気汚染」というグラフが出てくるが、それを見ると、一九七二年を境にして減少から増大へ逆転しているのである。その驚きと映画での主張がみごとにからみ合った。

十ナヤかなきびどひどひの警告が僕の心に残っている。

ライブラリー だよリ

★ 56年度の自作視聴覚教材完成!!

【ビデオ】

「田うえ」

「近くの商店がい」

「市民センター」

「米づくり農家の新しい動き」

「地域を見る」

【8ミリ】

「石匠」

★ 効果音レコードの利用を!!

雷・風・水の音や、汽車・祭ばやしなど、多種の効果音レコードがあります。これからの学芸会などに

是非利用を!!

サークル活動 (2月)

・二月十三日(土)午後六時

・読書会 六名(たろき書房)

(二階画廊)



~AV三三性報~ アナライザーとは?

集団学習反応分析装置(レスポンス・アナライザー)と訳されている。生徒どうしは、だれが、どのボタンを押したかわからないが、教師には、それがわかり、記録や集計ができるので、指導に大いに役立つ。